

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究
分担研究報告書（平成 29 年度）

Web を主体とした患者・家族への情報発信と一般医の啓発・教育活動

研究協力者 長堀 正和 東京医科歯科大学 消化器内科 特任准教授

研究要旨：本研究班ウェブページに、IBD の正確で最新の知識を、患者・家族向けに公開し、加えて、IBD 診療の均てん化と患者 QOL の向上を目的に、全国の一般医に対して、IBD の疫学、診断、治療、予後に関する冊子「一目でわかる IBD」を公開した。また、一般消化器医が IBD の実践的知識を身につけるための、e-learning を公開した。今後はこれらのコンテンツの充実はもちろん、患者団体や関連学会との連携を強め、本研究班の枠を超えて、本情報を告知および活用を推進していく必要があると思われる。

共同研究者

鈴木康夫（東邦大学医療センター佐倉病院 内科学講座）
竹内 健（東邦大学医療センター佐倉病院 内科学講座）
渡辺 守（東京医科歯科大学消化器内科）
松岡克善（東京医科歯科大学消化器内科）
藤谷幹浩（旭川医科大学内科学講座消化器血液腫瘍制御内科学分野）
中村志郎（兵庫医科大学内科学下部消化管科）
穂刈量太（防衛医科大学校内科）
藤井久男（平和会吉田病院消化器内視鏡・IBD センター）
岡崎和一（関西医科大学内科学第三講座）
二見喜太郎（福岡大学筑紫病院外科）
安藤 朗（滋賀医科大学消化器内科）
平井郁仁（福岡大学筑紫病院消化器内科）
渡辺憲治（兵庫医科大学腸管病態解析学）
木村英明（横浜市立大学附属市民総合医療センター炎症性腸疾患（IBD）センター）
長沼 誠（慶應義塾大学医学部消化器内科）
横山 薫（北里大学病院消化器内科）
辻川知之（国立病院機構東近江総合医療センター消化器内科）
新井勝大（国立成育医療研究センター消化器科）

A. 研究目的

炎症性腸疾患(IBD)に関する正確な知識を、全国の患者およびその家族に啓発する。加えて、IBD の正確で最新の知識を、全国の一般医に啓発・教育することで、全国の IBD 患者が標準的で良質な診療を受けられることを目的とする。

B. 研究方法

まず、関連学会の 1 つである日本炎症性腸疾患学会（JSIBD）との連携を図るため、同学会の教育委員全員に、本プロジェクトのメンバーとして参加してもらうこととした。また、上記研究目的を達するため、Web 上での情報発信および啓発、教育活動を行う。

（倫理面への配慮）

特になし

C. 研究結果

患者および患者への情報発信としては、<http://www.ibdjapan.org/patient/>において、ダウンロード可能な小冊子「炎症性腸疾患の手術について Q&A」および「知っておきたい基礎知識 Q&A 妊娠を迎える炎症性腸疾患患者さんへ」の公開のほか、公開中の「知って

おきたい治療に必要な基礎知識 第2版」(潰瘍性大腸炎およびクローン病)に関しては、新規治療薬を掲載するため、内容の改定を行い、第3版として公開を行なった。

患者さん・家族情報

02 | 資料



一般医の啓発・教育を目的として、<http://www.ibdjapan.org/members/> において、IBDの診断、治療、疫学・予後について学ぶためのe-learningを作成、公開した。本e-learningでは、単なる知識を超えた「問題解決可能な」知識の習得を目的としているが、ミニケースを提示し、五者択一の選択肢から1つの正解を選ぶ問題となっている。回答を選択後には正解が示され、その理由について、詳しい解説と参考文献および【Take home message】が続く形式となっている。昨年度公開した33問については受講者の回答を解析し、不適切問題は1問のみであった。また、本年度、新たに保険収載された「便中カルプロテクチン」の適正使用に関する問題など、新たな13問も追加公開した。

また、昨年度から公開されている「一目でわかるIBD」は多くの閲覧やデータ送付の申し込みがあり、患者、医師に加えて、薬剤師、看護師、などの医療者、研究者、学生、製薬企業の研究開発部門など、様々な人達において、活用されていることが明らかとなった。

「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班 医療関係者向け情報(会員限定)

- 閲覧申込み: 126件(2016.3-6)+171件(2016.7-2017.3) 合計 約300件
- 閲覧理由
 - 患者説明・診療補助(薬剤師を含む)
 - 自己学習(研究者、薬剤師を含む)、e-learning 閲覧
 - 研究開発(製薬企業など)
 - 学生講義
 - 講演・勉強会(研修医、ナース、栄養士などを含む)
 - 難病指定医養成研修研修会
 - 市民講座
- 「一目で分かるIBD(第二版)データ送付(2016.3-2017.3): 81件

D. 考察

Web上で発信した患者向け情報については、その活用状況の把握が必要であるが、JSIBDの市民公開講座にて情報提供する他、日本炎症性腸疾患協会や全国の患者団体とも連携を検討していく必要があると思われる。

一般医の啓発・教育のためのWeb上のコンテンツ「一目でわかるIBD」は、場所や時間を選ばないなどの利点もあり、一般医を超えてIBDに関わる全ての人に教育的な内容であることも示唆された。e-learningについては、新たな問題を含めて解答の分析を行い、更に新たな問題の検討や、Webの特長を生かした動画での教育コンテンツの開発が求められると思われた。

E. 結論

Webを活用したIBD患者およびその家族にIBDの正確で最新の知識を啓発し、加えて、全国の一般医およびIBD関係する全ての医療者の啓発・教育に有用であることが示唆された。今後は同コンテンツの充実はもちろん、患者団体や関連学会との連携を強め、本研究班の枠を超えて効率よく告知していく必要があると思われた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

Web 上で公開

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし